

# 審査等業務の過程に関する記録

一社) 再生医療協会  
特定認定再生医療等委員会

## 審査等業務の過程に関する記録

2023年5月25日

医療法人社団 HELENE  
表参道へレネクリニック  
小林 奈々 殿

一般社団法人 再生医療協会  
特定認定再生医療等委員会

貴院より提出された新規再生医療等提供計画の審査に関する記録は下記の通りです。

### 1. 審議対象及び審議出席者

<開催日時> 2023年5月22日(月) 第2部 17時15分~17時30分

<開催場所> オンライン会議システム「Zoom ミーティング」による開催

<議題>

#### 【新規審査】【第二種 治療】

- ・医療法人社団 HELENE 表参道へレネクリニック (管理者: 小林奈々)  
「T1DM に対する MSC の静脈内投与」

<委員の出欠>

出欠*1	氏名	専門*2	所属機関	本委員会との 利害関係の有無	性別
×	野呂知加子	①	日本大学医学部 細胞再生移植医学講座 客員教授 日本大学生産工学部 応用分子化学科 非常勤講師	無	女
×	奥村康	①	順天堂大学医学部免疫学特任教授・名誉教授	無	男
○★	岡本慎一	②	医療法人社団康静会 理事長 赤羽ウェルネスクリニック 医師	無	男
○	本村朋子	③	慶應義塾大学耳鼻咽喉科 医師	無	女
○	団克昭	④	慶應義塾大学医学部総合医科学センター元研究員 一般社団法人 生物活性研究機構 代表理事	無	男
×	細川律夫	⑤	第13代厚生労働大臣 越谷総合法律事務所 弁護士	無	男
○☆	鈴木沙良夢	⑤	鈴木沙良夢法律事務所 弁護士	無	男
×	大林正幸	⑥	東洋英和女学院大学人間科学部人間科学科教授	無	男
×	松浦正明	⑦	帝京大学大学院 公衆衛生学研究科教授	無	男
×	石田知恵子	⑧	元参議院議員(松田公太議員)公設元第一秘書 現松田公太氏秘書	無	女

○	鴨志田リエ	⑧	東京都目黒区議会議員 元目黒区議会副議長	無	女
---	-------	---	-------------------------	---	---

\*1○出席、×欠席、☆委員長、★副委員長

\*2特定認定再生医療等委員会 構成要件

- ① 分子生物学、細胞生物学、遺伝学、臨床薬理学又は病理学の専門家
- ② 再生医療等について十分な科学的知見及び医療上の見識を有する者
- ③ 臨床医
- ④ 細胞培養加工に関する見識を有する者
- ⑤ 医学又は医療分野における人権の尊重に関して理解のある法律に関する専門家
- ⑥ 生命倫理に関する見識を有する者
- ⑦ 生物統計その他の臨床研究に関する見識を有する者
- ⑧ 一般の立場の者

<申請者>

管理者：小林奈々

<申請施設からの参加者>

医員：松岡孝明

<陪席者>

泉健一（一般社団法人再生医療協会 職員）

<技術専門員>

津田康史（表参道トラベルクリニック院長：内科医）

<配布資料>

資料受領日時：2023年5月19日（金）

- ・再生医療等提供計画書（委員会提出用）
- ・再生医療等提供基準チェックリスト
- ・提供する再生医療等の詳細を記した書類
- ・実施責任者及び再生医療等を行う医師又は歯科医師の氏名、役職及び略歴
- ・説明文書及び同意文書
- ・再生医療等提供計画に記載された再生医療等と同種又は類似の再生医療等に関する国内外の実施状況を記載した書類
- ・再生医療等に用いる細胞に関連する研究を記載した書類
- ・特定細胞加工物概要書
- ・特定細胞加工物標準書
- ・衛生管理基準書
- ・製造管理基準書
- ・品質管理基準書
- ・再生医療等の内容を出来る限り平易な限り表現を用いて記載したもの

- ・特定細胞加工物製造に係る委託契約書
- ・品質リスクマネジメントに関する書類
- ・個人情報取扱実施管理規定
- ・細胞培養加工施設からの特定細胞加工物の提供の管理に関する手順書
- ・検証又は確認に関する手順書
- ・品質の照査に関する手順書
- ・変更の管理に関する手順書
- ・逸脱の管理に関する手順書
- ・品質等に関する情報及び品質不良等の処理に関する手順書
- ・重大事態報告等に関する手順書
- ・自己点検に関する手順書
- ・教育訓練に関する手順書
- ・文書及び記録の管理に関する手順書
- ・標準作業手順書（SOP）
- ・特定細胞加工物製造届書
- ・細胞培養加工施設の構造設備チェックリスト

## 2. 審議進行の確認

<開催基準の充足>

再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行規則（平成二十六年九月二十六日厚生労働省令第百十号）改正後第六十三条の規定する開催要件は次の通り。

成立要件：

1. 5名以上の委員が出席していること。
  2. 男性及び女性の委員がそれぞれ2名以上出席していること。
  3. 次に掲げる者がそれぞれ1名以上出席していること。
    - イ. 再生医療等について、十分な科学的知見及び医療上の識見を有する者
    - ロ. 細胞培養加工に関する識見を有する者
    - ハ. 医療又は医療分野における人権の尊重に関して理解のある法律に関する専門家、または生命倫理に関する識見を有する者
  - ニ. 一般の立場の者
  4. 出席者の中に、審査等業務の対象となる再生医療等提供計画を提出した医療機関（当該医療機関と密接な関係を有する者を含む。）と利害関係を有しない委員が過半数含まれていること。
  5. 認定再生医療等委員会の設置者と利害関係を有しない委員が2名以上含まれていること。
- ・ 委員長の鈴木沙良夢が今回の審査の前に、開催基準に関して要件を読み上げ、全てにおいて条件を満たしていることを各委員に宣言した。当該委員会の規定について確認された。

## 3. 審議

【結論及びその理由】

- ・ 審査の結果、出席委員の全会一致により、本計画の提供を『承認』とした。

## 【審査内容】

### (1. 審査前の確認・報告事項)

・技術専門員の津田康史から評価書が事前に提出されていることが報告された。

### (2. 技術専門員による意見・評価)

はじめに松岡医師よりスライドを用いて本計画の概要説明が行われ、その後、技術専門員の津田康史による「技術専門員からの評価書」の内容に対する松岡医師からの回答を確認した。内容は下記の通り。

#### <評価内容>

1) 6歳以上を治療対象にするようですが、小児に対する安全性は担保されていますか？

→[回答] T1DMは小学生くらいの年齢から起きてきますので、海外の論文など見ても投与例はたくさんあり、安全に治療が行われています。投与量に関しては体重に合わせて適量に調整を行っていききたいと思います。

2) 海外ではPEC-Directのような培養デバイスが開発中ですが、本治療は単回静脈投与です。継続的にインスリン分泌能を維持するには培養細胞のデバイス型投与の方が合理的に思えますが、どう思われますか？

→[回答] アメリカ合衆国などではよい結果が出ており次のステップのテクノロジーとしては有望なので当院としても将来的には導入を検討したいのですが、背伸びをせずに当院のスペックでできる安全な治療法から始めたいと考えております。

### (3. 再生医療等提供基準チェックリストに基づく審議及びそれ以外の質疑応答)

団	以前、2型糖尿病に対する幹細胞の静脈内投与の審査を行ったが、1型糖尿病に対するものと幹細胞の作用メカニズムに違いはありますか？
松岡	病名は同じ糖尿病ではあるのですが、1型糖尿病の方は自己免疫疾患の範疇になりますので、2型糖尿病のような内分泌の疾患というよりも、SLEやリウマチに対するものと同じような作用機序で効いてくるのではないかと考えております。ご指摘のとおり作用メカニズムの違いはあるものと思われま。
団	日本の糖尿病学会の判断基準とWHOの判断基準にはいつもずれがある認識だが、今回の再生医療等提供計画の患者の選択基準はどちらに拠っていますか？
松岡	血液データに関しては日本の検査機関の基準を参照しているので日本の学界の判断基準に準じていることとなります。ただし、膵島抗体に関する判断基準は日本の学界だとやや曖昧でオプション的な扱いになっているのが、当院ではそこは大事な部分であると考えておりますので、きちんと検査をして有無をはっきりさせたいと考えております。
鈴木	本日はご出席されていませんが委員の野呂先生からこの治療はインスリンの投与と並行して行うのか、それとも単独で行うのかという指摘がありますがその点はいかがですか？
松岡	インスリンから離脱できるケースはそれほどなく、幹細胞投与についても効果に即効性が無いため、インスリン投与と併用しながら行うこととなります。インスリンの投与量が減ってくれば、幹細胞投与に効果があったと判定することとなります。患者自身やその保護者、紹介状を書いた主治医と相談しながら治療の方針を決めることとなります。海外の論文だと幹細胞投与によりインスリンから離脱できた症例もあるので期待したいと考えております。

これらの質疑・審査を行った後、申請当事者を一旦退出させ、委員で議論を行った。

#### 4. 判定

議論の結果、出席委員の全会一致により、今回審査した計画について「承認」と判定する。

[備考] 2023年5月25日に認定再生医療等委員会意見書を発行した。

以上